

志小安全・防災だより



R元.10.7 NO.22
安全・防災担当:早坂 潤

5年生の校外学習(河北新報社印刷センター見学)より

先月27日(金)に、5年生の校外学習が行われ、河北新報社印刷センターとトヨタ自動車大衡工場を見学しました。河北新報社印刷センターでは、東日本大震災時に建物が大きな被害を受けなかった理由や、震災当時に朝刊や夕刊、号外版を新潟県の新報社に協力をもらって発行したこと、衛星通信を使って写真を送り印刷したことなど、当時の苦労話も聞かせていただきました。子どもたちは、東日本大震災時の沿岸部の記事と、“不羈独立”“東北振興”という文字が掲げられていた研修室に案内され、新聞が各家庭に届けられるまでの過程を動画で紹介されました。この部屋に掲げてあった“不羈独立”“東北振興”の文字は、誰の助けも借りずに自分の力で道を切り開いていくこと、東北を発展させれば日本はさらに元気になり、東北地方に日本の未来があることを語っており、この2つのことを胸に刻んで仕事に励むことを社員に訴えかけている「社訓」だそうです。多メディア化の中、多くの人たちに新聞を読んでもらうための日々の努力が欠かせないとのことでした。



明治30年に発刊された新聞は、写真がなく、色も墨一色だったそうです。また、教育が普及しておらず漢字が読めない人たちが多くいたために、すべての漢字にルビがふってみんなに読んでもらえるようにしていたそうです。



写真は、耐震アイソレータという大きな地震の揺れから建物を守るものためのものです。この印刷センターの建物の下に74個のアイソレータが設置されており、東日本大震災でも大きな被害を受けることがなかったそうです。

八幡川に大きな魚の背びれが見られる季節になりました

地域の方より、八幡川の川沿いを散歩していたときにサケの背びれが見えた話を聞かされました。サケが遡上する季節がやってきたようです。昨年は、震災後最も多くのサケが遡上しました。今年はどれだけのサケが八幡川に返ってくるのか、みんな楽しみにしています。



まだ早いようですが、時期的にはそろそろでしょう。